

## 第5B(小)分科会 教職員の専門性に関する課題

提案主題 小規模校での学校運営を支える教職員の専門性向上と教頭の役割  
サブテーマ ~子どもを通わせたいと思う保護者が増える学校づくりを通して~  
協議の柱 小規模校の組織体制構築における教頭の役割はどうあれば良いか。

提言者 由布市立石城小学校 後藤 敏博

### 1 質 疑

- (1) Q: 「小規模特認校制度」で学区外から転入してくる児童の転校理由は。  
A: 今の学校でいじめにあたり友だちとの関係でうまくやっていけなかったりということが多い。また、1クラスの人数が多すぎる、小規模校で学ばせたいなどの理由もある。
- (2) Q: 子どもを通わせたいと思う保護者を増やしたいことと学校組織作りとの関連は。  
A: 学校組織作りを通して、職員に所属意識や充実感、達成感を味合わせることで魅力ある学校となり、保護者も通わせたいと思う学校づくりにつながる。
- (3) Q: 学力調査の分析に教頭がどう関わっているか。  
A: 先生方をよく知っている。研究主任に早くすることの良さを話し、行わせている。

### 2 協 議

- (1) それぞれの学校にはどんな組織があるのか。
  - ・分掌部会やプロジェクトチームがある。運営委員会は、中学校では週1、小学校では月1、2回で行われている。いじめ不登校対策会議等と兼ねて行っているところもある。
- (2) 組織をどのように機能させていこうとしているのか。(教頭の役割)
  - ・主幹教諭がいる学校では、主幹教諭との連携を密にする必要がある。
  - ・各チームに教頭が入るのは難しい。それぞれのチームの連絡・調整役になり、提案前の指導や、運営委員会の中での指導や助言、影響力のある教員への指導が重要である。
  - ・教務主任にどのように仕事を担ってもらうか。また、各分掌主任に役割を明確にして責任分担を図っていく。
  - ・組織は以前からあったが機能していなかった。これまで個人で提案していたことを組織として出させることにより、組織の重要性や達成感を職員に体感させることが大切である。

### 3 指導助言

- (1) 学校現場には、同僚性(石垣のような相互に支え合う関係)が必要である。石城小学校にはそれがみられる。全職員を3つのチームに全てかかわらせ所属感を高めることができている。また、教頭として3つのチームに関わり、その中で自分自身の役割を明確にしていることがすばらしい。
- (2) 小さい学校では一人一人に仕事内容が重なっているため、運営委員会の中で各主任が活かされるように主任の働きを強化していく必要がある。